＜ヒストリアン＞

世界遺産と平和のとりで　（2018．2）
ピースおおさかと平和ミュージアム(その1)　（2018．4）
ピースおおさかと平和ミュージアム(その2)　（2018．4）
中・近世の日朝交流(1) 宋希璟の『老松堂日本行録』から知る室町時代の日朝関係　（2018．8）
平和学習の島　大久野島　（2021．7）
朝鮮通信使のユネスコ「世界の記憶」登録 5 周年　（2022.12）
発災から 12 年目を迎える東日本大震災被災地を訪ねて　（2023.3）
日本と東アジアの関係を学べる場　ウトロ平和祈念館　（2023. 4）
ウポポイ　ーアイヌ民族とその歴史・文化を知る民族共生象徴空間ー　（2023. 6）
東アジアの民族共生空間　大阪コリアタウン歴史資料館　（2023.7）
夢みる校長先生たちが作る「子どもファーストの公立学校」　（2023.9）
文化観光と北陸新幹線の開業　（2023.11）
幕末の神戸港跡と近代神戸　（2024.2）
二つの展覧会 ワルシャワ蜂起と水俣病　（2024.6）
南の小さな島の歴史から見えるもの　（2024.7）
南の小さな島の歴史から見えるもの(その2)　（2024.8）
8 月に広島を訪れて　（2024.10）
東日本大震災 津波被災地の今　（2025.1）

世界遺産と平和のとりで　（2018．2）

ヒストリアン　　（狩場台）

世を挙げて世界遺産ブームである。日本は 1992 年に世界遺産条約を批准し、翌年に法隆寺・姫路城・白神山地・屋久島が登録された。2017 年現在の文化遺産は 17 件、自然遺産は 4 件である。関西では、唯一世界遺産のない大阪府が百舌鳥・古市古墳群登録に向け、活発な活動を続けている。1 月 19 日の閣議決定で推薦が決まり、2019 年登録を目指し、今年 9 月にイコモスの審査を受ける。

インバウンド景気に刺激され、自治体は観光振興の核として世界遺産登録に躍起となっている。しかしこの動きに違和感を抱く関係者は少なくない。屋久島町長も「世界遺産＝観光ではないと考える。遺産の価値を認め、守るという思いよりも、交流人口を増やして地域を活性化することに重きが置かれ、それを目的に登録が進められるのは間違いではないか。」(『毎日新聞 2018.1.15』)と述べる。

文化遺産は観光の目玉ではない。それはあくまで副次効果で、世界遺産に名乗りでるには人類が創造した優れた遺産を、交流と相互の文化理解のために、将来に保存していく強い決意が必要だ。

そもそも文化遺産は、第二次世界大戦の教訓から生まれたユネスコ憲章前文(1945 年 11 月 16 日採択)にあるように、異なる文明・文化を知るための貴重な宝だ。長くなるが引用しよう。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起した共通の原因であり、この疑惑と不信のために諸人民の不一致が余りにもしばしば戦争となった。」

タリバンに破壊されたバーミヤン石窟を上げるまでもなく、平和ゆえに文化遺産は守られ、世界各地から人々が見学に訪れ、遺産を築いた人々の風習と生活を理解し、それがひいては平和の礎

となる。世界遺産は人類の遺産である。まずは次世代のために保存し、「平和のとりで」として継承していくことを忘れてはならない。

ピースおおさかと平和ミュージアム（その1）　（2018．4）

ヒストリアン　　（狩場台）

私は仕事柄、博物館などのミュージアム施設をよく訪れる。今年に入り、念願のピースおおさかを訪ねることができた。大阪環状線森ノ宮駅から徒歩6分、大阪城公園の一角にピースおおさかがある。

ピースおおさかの前身は、1981 年に開設された大阪府平和祈念戦争資料室である。その開設にあたり、戦争資料室運営懇談会が設立され、基本理念や展示内容・方法について、府民各界各層から幅広い意見を聴取した。ピースおおさかはそれらを受け継ぎ、1991 年に開館した。大阪府や大阪市が出資した公益財団法人大阪国際平和センターが運営する。

その設置理念（1991 年 9 月 17 日）は、「第二次世界大戦において、大阪では 50 回をこえる空襲により市街地の主要部が廃墟と化しました。（略）同時に、1945 年 8 月 15 日に至る 15 年戦争において、戦場となった中国をはじめアジア・太平洋地域の人々、また植民地下の朝鮮・台湾の人々にも多大の危害を与えたことを、私たちは忘れません。（略）当センターも大阪における戦争被害者に対する追悼の場であるとともに、平和に向けての新たな地域的な取り組みを意図したものです。（以下略）」※という高邁なものである。

この理念の下 2014 年 8 月まで、展示は「大阪空襲と人々の生活」、「15 年戦争（中国コーナー・朝鮮コーナー・東南アジアの国々）」、「平和の希求」の 3 本柱で構成されていたが、朝鮮コーナー展示で、2011 年に朝鮮人強制連行のパネル写真が誤用と判明し、2013 年には南京大虐殺の展示が大阪維新の会議員から自虐的と批判されたことから、2014 年にリニューアル工事が行われ、2015 年 4 月大阪空襲を語り継ぐ平和ミュージアムとして再オープンした。

現在は大阪空襲にテーマを絞った展示構成となっている。そのため、私を含めこの間の経緯を知らずに展示を見た人は、空襲の被害や戦時中の苦しい生活は理解するが、砲兵工廠があったか

ら大阪は空襲を受けたのだと思いを廻らす程度で、空襲を受けた原因にまで思いが至らない恐れもある。

※公益財団法人大阪国際平和センター設置理念　HP 参照

ピースおおさかと平和ミュージアム（その2）　（2018．4）

ヒストリアン　　（狩場台）

現在のピースおおさか各ゾーンの展示テーマは、「昭和 20 年、大阪は焼き尽くされた」、「世界中が戦争をしていた時代」、「戦時下の大阪のくらし」、「多くの犠牲を出し、焼け野原になった大阪」、「たくましく生きる大阪」、「私たちの未来をつくっていくために」となっている。

2014 年 8 月までの展示構成と比較すると、アジアへの侵略による加害と空襲被害双方の展示の内、加害展示が脱落し、もっぱら被害展示に様変わりしている。

大阪砲兵工廠が、日清戦争以後拡張を続けている展示パネルをみれば、軍需都市として大阪が発展し、それがために大阪空襲があり、無辜の市民が犠牲になり、市民生活も打撃を受けた流れは理解される。しかし、設置理念に沿った 15 年戦争の展示（朝鮮人強制連行・従軍慰安婦・南京大虐殺）が撤去され、「世界中が戦争をしていた時代」と一般化されると、主体が不明確になり、戦争がなぜ引き起こされたかという点が見えにくくなったことは否めない。空襲犠牲者の中に、徴用された中国・朝鮮の人々が含まれていたことも消えている。

現在の展示の中には、人々に平和の大切さを訴える展示があり、今も戦争体験者の記録や資料収集活動をされている点は評価される。講堂では映画の定時上映、図書室は戦争と平和に関する図書・映像資料が豊富で、資料貸出し、語り部・紙芝居・映画上映などの平和学習プログラムを用意し、多彩な活動を展開されていることにも敬服する。

だが松井府政・橋本市政の下で、予算削減・職員交代などピースおおさかの運営への介入、展示批判がなされ、学会や市民団体のリニューアルへの問題提起にも拘らず、戦争被害の一面のみ展示する平和ミュージアムとなったことは、設置理念からみて遺憾といわざるを得ない。平和学習プログラムで、展示されなかった事実の補完がなされることを望みたい。

先の大戦の反省から平和の大切さを学ぶ施設として、平和が奪われ、戦争に至った原因を考えさせる展示は、平和ミュージアムには必要であろう。神戸でも平和博物館の設立が求められる。

中・近世の日朝交流（1）

宋希璟の『老松堂日本行録』から知る室町時代の日朝関係 （2018．8）

狩場台　　ヒストリアン

徴用工、従軍慰安婦など戦前の日本が朝鮮の人々に強いた負の歴史が、今や日韓両国政府の大きな政治課題となっていますが、国民ベースでは、両国が将来に向け、隣国として友好的かつ平和的に共存していくことが切なる願いです。近代以降の日朝関係を考える参考に、近世までの日朝交流史をみておきたいと思います。

最初に宋希璟（ソン・ヒギョン、号は老松堂）が著した有名な『老松堂日本行録』から伺い知る室町時代の日朝交流をご紹介します。

室町時代の日朝関係、というより中国を含めた東アジア世界では、倭寇対策が大きな課題でした。1419 年 6 月朝鮮軍が、倭寇の基地と睨んだ対馬を襲撃します。それは応永の外冦と呼ばれ、室町幕府に大きな衝撃を与えました。襲撃の真意を探るため、幕府は大蔵経を求めるという理由で、すぐに朝鮮へ使者を派遣します。

その返礼と使者を送り帰すため、1420 年正月、宋希璟が朝鮮国王の回礼使として日本に派遣されます。宋希璟は、外交使節として明へも派遣された経験を持つ官人です。

博多では、下船した朝鮮使節一行が宿所に向かう行列を、僧尼や老若男女が道路に群がって見物したと記録にあります。瀬戸内海を東行する一行は、海賊の難を避けつつ、逆風または日没により、馬関、尾道、下津井、室津、兵庫などで停泊しました。停泊地では下船し、武士や禅僧と交流し、求めに応じ詩や賛を書き、また酒肴を携え船にやってくる人々と船上で交流する様子が記されています。

兵庫から騎馬で京都に到着した朝鮮使に対し、時の将軍足利義持は 2 ヶ月近くも対面せず、尼寺に止宿させます。これに対し宋希璟は、応永の対馬襲撃について朝鮮王の真意を伝え、5 月義満

の 13 回忌に魚を食せず追悼の意を示すと、義持の不信感は取り除かれ、待遇も改善されました。6 月に入り漸く義持と対面が叶い、10 日後に国書を受け取り、宋希璟は帰国の途につきます。

朝鮮使と幕府との外交を担当したのは、禅僧や貿易商、帰化中国人でした。宋希璟は京都滞在中に、彼らや幕府中枢の武士と親交を深め、酒を酌み交わし、詩や書を献じ、また請われて扇子や掛軸に賛を書き、献じました。将軍義持も詩を献呈され、好い詩だと語ったと記されています。

離日の日、滞在中の警護役を勤め、交誼を結んだ武士狩野氏は、泣いて別れを惜しみ、宋希璟は「今朝忽分袂　我心悲以辛　朝鮮與日本　自昔相交隣　況今為一家」（今朝たちまち袂を分かつ　我が心悲しく以て辛し　朝鮮と日本　昔より相交隣す　いわんや今一家と為すを）と詩に詠じています。

このように『老松堂日本行録』からは、東アジアの知識人、文化人として、互いに敬意を表し、交流する日朝の人々の姿が浮かび上がります。

（上図は倭寇図鑑、東京大学史料編纂所　　編集委員）

平和学習の島　大久野島（2021．7）

狩場台　　ヒストリアン

6月のつどいの講師、山本優先生が中学生を引率し校外学習で行かれた場所、瀬戸内海に浮かぶ周囲約4キロの小島、大久野島へ行ってきました。今はうさぎの島として竹原市の観光名所となり、椰子並木が続く広々とした国民休暇村から瀬戸内海の島々を眺望できる観光地（写真）です。その島に戦前、毒ガス製造工場がありました。

昭和 63 年開館の毒ガス資料館（写真）は、島の桟橋から5分程の所にあり、展示室には、毒ガスの加害と被害の解説、工員の作業服や製造器具（写真）の一部が展示されていました。以下、資料を参考に毒ガス製造の歴史を紹介します。

大久野島は、灯台守と農家、火薬庫看守の4世帯が住む長閑な島でしたが、昭和2年陸軍の毒ガス製造工場建設が始まり、昭和4年に創業しました。住民は島外へ移住、島は軍の官有地となり、秘密保持が図られました。

毒ガスは呼吸器と皮膚から吸収され、人体に甚大な被害を及ぼします。大久野島で製造していたのは、イペリット・ルイサイト2種類のびらん性ガス、青酸の窒息性ガス、くしゃみ性ガス、催涙性ガスの5種類で、昭和4年から昭和 19 年まで 6616 トン製造しました。毒ガス兵器なら、千万人以上殺害できる量です。

島の西海岸の平地は、製造工場、貯蔵庫、検査工室など 100 棟を超える建物で埋め尽くされていました。工員は工業・薬学の専門学校から集められ、その後は学徒動員や民間の徴用工が集められ、延べ 6700 人が働いていました。作業員で健康被害に遭った人も多く、被毒し亡くなった人も

います。健康被害を訴えた人は島から追放され、死者の実数は不明です。大久野島から西へ航行すると宇品港があり、ここから中国戦線に運ばれた催涙性ガスやびらん性ガスが実戦で使用され、敗戦と共に中国国内に遺棄されました。一方大久野島の毒ガスは、敗戦時 3200 トン残り、焼却、防空壕埋設、島周辺や土佐沖に海洋投棄されました。今も環境への影響が懸念されています。

大久野島には、国際条約に違反し毒ガスを製造していた負の歴史があります。国民休暇村（写真）の一角に今も研究室棟、毒ガス貯蔵庫跡が残り、山本先生が話された平和学習に相応しい歴史をもつ島です。一度訪ねてみられては、いかがでしょう。

参考資料　山内正之『大久野島の歴史』大久野島から平和と環境を考える会　2020 年

朝鮮通信使のユネスコ「世界の記憶」登録 5 周年（2022.12）

狩場台　ヒストリアン

今年はユネスコ「世界の記憶」に朝鮮通信使が登録されてから 5 周年、政府による登録申請でなく、日韓の民間団体による申請が認められ、2017 年登録された。日韓両国の外交・旅程・文化交流の記録、111 件 333 点が登録された。今、大阪韓国文化院ミリネギャラリーで特別展「朝鮮通信使の記憶」が開催され、11 月 26 日には記念講演会・シンポジウムも行われ、私も参加した。

登録された名称は、「朝鮮通信使に関する記録―17 世紀～19 世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史―」というものだ。その名が示すように、1607 年から 1811 年までの、およそ 200 年間で朝鮮国から日本国の江戸幕府に 12 回の通信使が派遣された。ソウルから江戸までの片道約 2000 キロの道のりを、往復で半年から9か月、500 名ほどの使節が日本国内を巡行した。

外交使節である通信使が通過する地域の藩は警護を担当し、その宿泊地では、日本人が書を求め、交流した記録が残る。その行列を一目見ようと通過地の人々は、海岸や川沿い或いは道の端から眺め、自分たちが見た通信使を記憶し、記録に残した。

登録された記録の数々は、豊臣政権が起こした文禄・慶長の役の悲惨な戦いを経験した日韓両国が、その後の 200 年に及ぶ平和で安定した友好関係を築いた証しである。この記録の登録意義について、「両国が平和な時代を構築し、これを維持していくための方法と知恵が凝縮されており、「誠信交隣」を共通の交流理念として、対等な立場で相手を尊重する異民族間の交流を具現したものである」とされ、「この記録は両国の歴史的経験に裏付けられた平和的・知的遺産であり、恒久的な平和共存関係と異文化尊重を志向する人類共通の課題を解決するものとして顕著で普遍的な価値を有している」※と、述べられる。

韓国では 2018 年に朝鮮通信使船が復元され、対馬では 2021 年朝鮮通信使歴史館が開館した。民間では、実際に朝鮮通信使の足取りを辿る 21 世紀の朝鮮通信使―ソウル-東京友情ウォークの第 9 回目が来年 4 月 1 日～5 月 23 日まで催される。また朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会も毎年のように開かれている。こうした民間の交流が日韓の友好関係を維持する礎となる。江戸時代の人々が通信使に払った友情と敬意を学び、私たちも韓国の人々と文化を尊重し、民間交流を持続していきたい。

※仲尾宏・町田一仁『ユネスコ世界記憶遺産と朝鮮通信使』2017 年明石書店

発災から 12 年目を迎える

東日本大震災被災地を訪ねて（2023.3）

狩場台　ヒストリアン

昨年 12 月東日本大震災の被災地、岩手県を訪れた。間もなく発災 12 年目を迎える被災地の近況を紹介したい。

初日は盛岡から宮古へ入り、翌日は宮古から沿岸部を陸前高田まで南下した。震災から 10 年が経過し、被災各地の復興は、道路・住宅団地・防潮堤などハード面ではかなり進んだ。また青森県から福島県まで 3.11 伝承ロードが作られ、津波災害の脅威を伝える震災遺構が保存され、教訓を学ぶ震災伝承施設が各地に整備されていた。

宮古市田老地区では、1957 年の第 1 防潮堤、1965 年の第 2 防潮堤、1978 年の第 3 防潮堤が X 字状に交差する形で築かれていたが、高さ 17.3mの津波はそれを乗り越え、町を襲った。田老漁港には、津波の到達水位を示す表記が崖に貼られていた。現在は高さ 14.7mの新防潮堤が、従来の防潮堤の外側に築かれている。

多くの住宅が流失した中、かろうじて残った「たろう観光ホテル」が、今では震災遺構として保存され、防災ガイドの方々が語り部を務める災害学習施設として活用されている。

井上ひさしの小説『吉里吉里人』で有名な大槌町は、約 7 割の建物が被災し、町民の8%が犠牲になった。町長以下 40 人の職員が犠牲になり、保存か解体かで町民の意見が分かれた大槌町庁舎は、結局解体され、その跡地には観音像やお地蔵さんが祀られ、今も犠牲者へ花束が捧げられていた。大槌の町を見下ろす城山公園には、神戸から分灯された希望の灯りがともされ続けている。

陸前高田では、高田松原に面して高田松原津波復興祈念公園、東日本大震災津波伝承館が整備されていた。津波災害を学ぶ展示施設があり、震災遺構の気仙中学校、奇跡の一本松、旧道の駅などが残されている。陸前高田の市街地は 10m程地盤が嵩上げされたが、施設の建設は進まず、町の復旧・復興は道半ばだ。

津波浸水域の多くは、災害危険区域に指定され、住宅が建てられない。運動公園や多目的広場となり、津波発生時に緊急避難する避難の丘が各所に設けられていた。

沿岸を走行していると、住宅は高台に移り、更地が目についた。リアス式の三陸海岸は、波が穏やかで美しい湾が各所に見られたが、今は海沿いの道路には高い防潮堤が並走し、美しい風景は全く見られない。

被災地と内陸部を結ぶ東西交通路、沿岸部の南北交通路は、従来未整備で住民避難にも支障をきたしたが、震災後、宮城県から青森県へ抜ける三陸沿岸道が開通し、宮古盛岡横断道、花巻と釜石を結ぶ東北横断道も全線開通し、被災地の交通インフラは格段に改善された。

岩手の被災地は震災前から過疎化が進んでいたが、震災で更に人口減少が進んだ。陸前高田市は、今年 1 月で人口は震災前の約 2 万 3 千人から 5 千人も減少している。

被災地の主な産業は水産業であるが、幹線道路が開通したことで物流・観光業にどの程度の経済効果を齎し、人口回復に繋がるのか、被災地の復興にはまだ時間がかかりそうだ。

日本と東アジアの関係を学べる場

ウトロ平和祈念館（2023.4）

狩場台 ヒストリアン

ウトロというアイヌ語のような響きのある名前になぜか惹かれた。そこは北海道でなく、関西にあり、在日朝鮮人の住む地域だと知ったのは、強制立ち退きをめぐる新聞報道であった。宇土口（うとぐち）という地名が正式名称であったが、いつの間にか、誤読されウトロと呼ばれるようになった。ウトロ地区は近鉄伊勢田駅から徒歩8分程の場所、宇治市の南西部、久御山町と城陽市との境近くにある。

ウトロ地区の歴史は、戦前に遡る。1940年に逓信省京都飛行場建設のため、各地から2000名の労働者が集められた。その内1300人が朝鮮人であったため、1943年ウトロ地区に朝鮮人労働者飯場が設けられた。そこは下水が未整備で、雨が降れば浸水する場所だった。

戦後ウトロ地区には、飛行場建設に携わった作業員とその縁故者、戦後移住してきた人々が居住し、正確な居住者数は不明だが、1987年で80世帯、380人、2022年で60世帯、約100人が居住している。

土地は住民の知らないところで、飛行場建設会社から複雑な経緯で転売され、地権者から住民が立ち退きを請求されることになったが、半分弱の土地を韓国政府出資の財団、民間の財団が買い取り、そこにウトロ平和祈念館と市営住宅の建設が決まり、現在に至っている。

祈念館・市営住宅が建設中の2021年8月、祈念館に展示する目的で資料が保管されていた建物が民族差別をする男性により放火され、貴重なウトロの歴史資料が灰燼に帰した。私は今年2月に現地を訪れたが、放火された建物は焼けた柱だけが残り、隣家も類焼し、痛ましい光景であった。「ここに来て私らとご飯を一緒に一度でも食べたら、こんなことせんでもすんだかもしれへんのに！」と語る女性のように、ウトロは心優しい人が暮らす町だ。

平和祈念館はウトロ地区の東端に建設され、2022年4月に開館。敷地内には、ウトロ地区の朝鮮人労働者の飯場と古井戸が移設され、自由に見学できる。

祈念館は3階建て。1 階はウトロ喫茶もある多目的ホール、2 階は常設展示室、3 階は企画展示室。私が訪れたときは「ウトロに生きた人々」展が開催されていた。地区に住み、差別と闘い、生き抜いた人々の足跡が顔写真と共に紹介されていた。

今ではウトロ地区の日本人支援者も増え、ボランティアで活動されている。平和祈念館では、企業の研修や人権学習、大学の野外実習など多様な利用がなされていた。日本と東アジアの関係を五感で学べる貴重な場所だ。ウトロ喫茶では、コーヒーを飲み朝鮮料理を味わい、来館者と住民が交流できる。私も地区の歴史や現状についてお話を聞き、地域を回った。地区には市営住宅が建つ一方で、立派な戸建て住宅も少なからず残っている。立ち退きのため、補償もなくこれらが解体されることに、理不尽さを感じた。

平和祈念館は、昨年10月に入館者が7000名を越え、間もなく開館1年を迎える。祈念館では、「ウトロレター」という情報誌を発行し、サポーターも募集中だ。

この機会に是非、9条の会の皆さまも、ウトロ平和祈念館[開館日時は金曜～月曜 10時～16時]とウトロ地区に足を運んで頂ければと願う。

ウポポイ

ーアイヌ民族とその歴史・文化を知る民族共生象徴空間ー　（2023. 6）

ヒストリアン（狩場台）

北海道は面積約83, 400㎢、日本の面積の約22%を占め、近畿地方と中国・四国地方を併せた広さです。人口は 2022 年で約 515 万人、人口密度は 62.1 人/㎢で兵庫県の約 1/10 です。明治の初め頃、北海道のアイヌ人口は約16, 000人でした。これが北海道の自然条件の中で、狩猟・採集・栽培で生きる人々の適正規模の人口で、縄文時代と余り変わらぬ人口だったと思われます。

アイヌとはアイヌ語で人間のこと、北海道の先住者です。明治政府はアイヌの人々を「北海道旧土人保護法」で土人と呼称し、学校でアイヌ語やアイヌ文化を教えず、日本への同化を進めたのでした。1997年に同法は廃止され、2019年のアイヌ新法で、国は初めてアイヌを先住民族と認め、その尊厳と多様な社会の象徴となるウポポイを2020年、白老町のポロト湖畔に設立しました。ウポポイ（大勢で歌うこと）は、アイヌ文化の復興・創造の拠点となる民族共生象徴空間です。

ウポポイ内はアイヌ語が第 1 言語で、スタッフは見学者にイランカラプテ（こんにちは）とアイヌ語で話しかけてくれます。

ウポポイには様々な施設があり、アイヌの人と日本人や海外からの訪問者が交流する空間が用意されています。ポロト湖畔にはアイヌのコタン（村）が復元され、チセ（家屋）では、見学者はアイヌの儀式に参加し、アイヌ語の学習プログラムでアイヌ語を覚え、紙芝居を見たり、楽器演奏を聴いたりできます。チセでは日々催しがあり、見学者はそれぞれの催しに参加し、アイヌのスタッフと対話し、質問し、交流できます。

また屋外では弓矢体験、湖で丸木舟実演などもあり、工房では、伝統的なアイヌ刺繍や木器制作などを見学、体験もできます。私は弓矢を体験しましたが、にわか弓士だとなかなか的中しません。体験交流ホールではアイヌ歌謡と口琴の演奏、アイヌの祭りや儀式のときの円舞など伝統芸能も上演されます。
国立アイヌ民族博物館には、アイヌの文化や歴史を知る資料が展示され、シアタープログラムもあり、アイヌについて包括的な理解が得られます。

このように紹介すると、ウポポイはテーマパークのような印象を受けますが、ここを訪れる人々がアイヌ民族とアイヌ文化を知る入口となり、アイヌ文化を発信する役割を果たしています。西日本に住む私たちは、アイヌを遠い異国のことのように思うかもしれません。でもアイヌの人々は、私たち日本人の DNA の中にも確かに存在する縄文人の血を引き継ぎ、その生活を守り続けてきた人々です。

1980 年代から、戦前に人類学の研究者がアイヌの墓を許可なく掘り、人骨を持ち出したことが問題となりました。今も樺太アイヌの団体が京大に遺骨の返還を要求していますが、未だ返還されていません。これまでに国内外の研究機関から返還された人骨は、ウポポイの慰霊施設に保管されています。ウポポイはアイヌ民族が背負わされた歴史とその未解決の問題も学べる施設でもあるのです。

東アジアの民族共生空間

大阪コリアタウン歴史資料館（2023.7）

ヒストリアン （狩場台）

大阪環状線桃谷駅で下車し、桃谷公園を過ぎ、古い民家が残る弥栄神社参道に出ると、そこはコリアタウンの入り口です。KPOP のグッズ店や化粧品店、キムチ・食材店、韓国カフェなどいろいろな店が並ぶコリアタウンの通りを進み、一条通りとの交差点を北上したところに、今年 4 月 29 日に開館した大阪コリアタウン歴史資料館があります。片流れの屋根と白い外壁の洒落たデザインの建物です。
資料館入口には、資料館設立の目的を象徴する「共生の碑」が置かれ、裏面には詩人金時鐘（キムシジョン）さんの献詩が刻まれています。詩は「人が住みついた当初から猪飼野は居ながらにして迷路であった」と始まります。
資料館は、地元の画家、洪性翊（ホンソンイウ）さんから寄付されたアトリエを改装した建物で、小規模な展示室と奥にはカフェも併設されています。

展示は写真パネル、解説パネル、タッチパネル、住民から提供を受けた写真や資料、天井の映像投影で、見学者がコリアタウンの歴史を知る工夫がなされています。展示室のコーナーには朝鮮関係の書籍が棚にぎっしり並び、閲覧することもできます。
この地は古くから猪飼野と呼ばれ、その記録は『日本書記』仁徳天皇 14 年の「猪飼津」という記述に遡ります。7 世紀後半の百済滅亡後、この地に逃れた百済人や避難民を受け入れ、奈良時代に百済郡が置かれました。この猪飼野の地名は、1973 年に御幸通に変わるまで存続しました。
近代に入り、1910 年の韓国併合後、特に 1920 年代に植民地の朝鮮半島や済州島から仕事を求めて、多くの韓国人が大阪に渡来し、今のコリアタウンが生まれました。それから 100 年、展示では、差別と偏見に苦しみながらも猪飼野に根を張り生きてきた人々の歴史、韓国食文化や POP カルチャー、朝鮮学校と日本の学校の子どもたちとの交流も紹介されています。

資料館から一条通りを南へ 100m程の所には、通りを挟んで御幸森小学校、東大阪朝鮮第4初級学校があります。「地域の親は、日本の御幸森小学校へ子どもを通わすこともできましたが、民族の誇りを失わないようにとの思いから、お金はかかっても朝鮮学校へ通わす人々もいました」と、

資料館の方の言葉です。今はいずれも廃校になり、御幸森小学校は、いくのパークに生まれ変わり、地域の人が集う図書館、保育施設やギャラリーになっています。

コリアタウンを歩き、韓国料理に舌鼓を打つのもいいですが、コリアタウン歴史資料館を訪れ、近代日本と朝鮮半島の関係史やここで生きてきた在日コリアンの苦難の道を知れば、コリアタウン 100 年の奥行きが見えてきます。今は若い女性達が多く訪れるコリアタウン、彼女たち KPOP、韓国ドラマ・食への関心が、東アジアの人々との共生の礎になることを願います。

日本の果てのコリアンの町に
列をなして訪れる日本の若者たちがいる。
小さい流れも合わさっていけば本流さ。
文化を持ち寄る人人の道が
今に大きく拓かれてくる。
（金時鐘さんの「献詩」共生の碑から）

いくのコーライブズパーク
（略称：いくのパーク）

夢みる校長先生たちが作る
「子どもファーストの公立学校」（2023.9）
ヒストリアン （狩場台）

ドキュメンタリー映画「夢みる校長先生」は、「子どもファーストな公立学校の作り方」という副題の通り、子どもたち中心の学校運営を志す校長先生の物語です。私は以前、小学校の子供たちの学童保育に関わった経験があり、そのタイトルに惹かれて鑑賞しました。神戸では上映期間が短く、ご覧になれなかった方も多いと思い、ここで紹介させて頂きます。

映画の冒頭は子どもたちがヤギと触れ合うシーン、伊那市立伊那小学校の総合学習の場だと知る。生き物と触れ合う中で、子供たちが学習指導要領の各科目を学ぶユニークな授業をしている。伊那小学校では、通知表や時間割がない、しかもそれが 60 年間も続いていることに驚く。保護者も伊那小で学び、「子どもは、自ら求め、自ら決め、自ら動き出す力を持っている」という伊那小の理念に理解を示し、異動してきた先生たちも学校の方針を理解し、それに沿って授業をしている。学校での子どもたちの楽しそうな表情が印象的だ。校門で毎朝、子どもたちを迎える校長先生は、学校は子どもと教師の人生の出会いの場であってほしいと語る。公立学校でこんな授業ができるのだ、という衝撃を与える冒頭のシーンであった。

茅ヶ崎市立香川小学校も通知表を無くした学校だ。子ども同士が通知表で成績を比べ合うので、子どものためになる評価方法を職員で話し合い、2020 年から廃止した。卒業式でギターを演奏する校長先生の人柄もあり、保護者の理解も得た。保護者と共に子どもの成長を見守りたいと考えた校長先生の決断だった。

この他、宿題を廃止した武蔵野市立城南小学校や、校長室を廃止し、子供たちが自由に利用できるスペースとした横浜市立日枝小学校の取り組みも紹介される。世田谷区立桜丘中学校は、校長先生の発案で校則や定期テストを廃止した。髪を自由にし、浴衣登校日を設けたり、生徒たちに全校集会の運営をさせたりして、生徒の自主性を尊重する教育を行っている。こうした学校で

は、不登校の問題など生じない。別の学校で不登校になり、桜丘中学校に転勤してきた女子中学生が、卒業後、校門前で学校へ行くのが楽しかったと答えていた。

元文科省事務次官の前川喜平さんがコメンテーターとして、教育現場では自由が最も大切です、と法律や制度を紹介し、こうした校長先生の取り組みをバックアップする。国連の「子どもの権利条約」や児童の権利宣言も映画の中で紹介され、教育評論家尾木直樹さんが解説する。こどもファーストで学校運営をしている校長先生たちについて、前川さんは学校教育法では、校長は学校運営上の一切の仕事を処理する権限を与えられている、と語る。

公立学校でも、校長先生次第でこんなにも変えられる、ということを知らされた映画だ。国の様々な通達で縛られることが多い中、子ども中心の授業を実践し、学校運営をされている公立学校の校長先生たちがいることを心強く思う。子どもをファーストに考える教師や教育に関心を持つ人、保護者に是非とも見て頂きたい映画である。

文化観光と北陸新幹線の開業

ヒストリアン（狩場台）

朝倉氏館

10 月中旬、福井市の南西約 10 ㎞に位置する戦国大名朝倉義景の城下町、一乗谷朝倉氏遺跡を訪ねました。城下町は足羽川に開く一乗谷の谷奥と谷入口に土塁と堀を築いて防御した、南北 1.9km、東西 300mの谷地にあります。

戦国時代の歴史が好きな方は、石山本願寺と共に織田信長包囲網を築き、信長に抵抗した浅井長政と朝倉義景は、ご存知だと思います。
1573 年に朝倉氏の城下町一乗谷は、織田軍に攻略され焼失し、一族の裏切りにあった朝倉義景は越前大野で自害しました。一乗谷朝倉氏遺跡は、朝倉氏滅亡時そのままの姿で町屋や武家屋敷、寺院、朝倉氏一族の館跡が残る稀有な史跡として、国の特別史跡に指定され、また館の庭園は、後の改変がない戦国時代の作風が見られる貴重な庭で、特別名勝の指定を受けています。町屋や通りは復元され、当時の人々の暮らしが想像でき、平日でも団体や個人の観光客が訪れていました。

勝山市の某老舗料亭の仲居さんは、「福井はあわら温泉、東尋坊、永平寺以外に余り観光地もない」と語っていましたが、観光客が関心をもつものは多様で、海外からの観光客は地元の暮らしや伝統や風土に日本人が気づかない魅力を発見してくれます。福井市の東方には、一乗谷朝倉氏遺跡の他、永平寺、白山平泉寺など中世の歴史遺産が点在していますし、朝倉氏遺跡や平泉寺、福井城下町は庭石・石畳道・石垣が美しく「福井・勝山石がたり」という石の物語で日本遺産にも認定され、地元は PR に力を入れています。

復元建物と通り

2024 年 3 月の北陸新幹線開業を控え、福井駅では東京まで 2 時間 51 分と東京へのアクセスが便利になることを強調していました。関西からの利便性はさほど期待できませんが、東京方面からの観光客の誘致には効果が期待されます。

白山平泉寺の石畳

福井は農林水産業と越前和紙や越前焼の伝統産業を除くと基幹産業は眼鏡や繊維などで、地域の雇用創出力は少ないと思われます。因みに福井県の人口は約 74 万 5 千人、神戸市の半分程です。

背景にこうした事情があるのか、福井県は原子力発電所が全国最多です。若狭湾に面する高浜町・大飯町・美浜町・敦賀市の 4 市町が原発を受け入れ、その交付金で公共施設などの経費を賄っています。

北陸新幹線開業の経済効果がどれ程か分かりませんが、訪れる人、企業する人、移住する人が増えて、福井県の経済が底上げされるなら、これに越したことはありません。これまで定番であった温泉旅行に加え、文化観光や外国人の観光行動が地元に活力を与えてくれたら、と願います。

北陸地方の冬は雪深く、そのため太平洋側と比べると雪による生活の不便さが多々あります。日本海側の地域は裏日本、山陰などと呼ばれ、明治以降、表の日本を支える裏方のようなイメージを与えられてきました。北陸新幹線開業でそれを覆すような動きが生まれ、地域の若者が地域に誇りを持ち、地域に残れるような、それこそ持続可能な地域となることを期待し、開業後の人の動きを注視したいと思います。

幕末の神戸港跡と近代神戸　（2024.2）

ヒストリアン（狩場台）

昨年末、神戸港跡地の調査が行われ、市長が「神戸海軍操練所と考えられる遺構を発見」と記者発表し、マスコミで「幕末に勝海舟の進言で開設、石積みの防波堤発見」（神戸新聞 12/26）などと報じられた。1 月 13 日、14 日に現地説明会が開催され、多くの市民が見学に訪れた。場所は京橋筋を南へ下り、2 号線を越えてすぐ東側だ。現場は幕末から明治にかけての防波堤の石積みが残り、防波堤の先端に設けられた明治の信号所跡と木柵も見つかった。生田川河口から西へ延びる砂嘴を補強し、護岸とした過程も明らかになった。

この場所は、幕末に網屋吉兵衛が船たで場（船底についた貝を落とし、修理する場）を整備し、その後勝海舟が開いた神戸海軍操練所の入口にあたる。開港後は、陸側に運上所（税関）も築かれた、いわば神戸港発祥の地である。

155 年前の開港時の港の施設が発見された意義は大きい。

1868 年 3 月 28 日の絵入新聞

「THE ILLUSTRATED LONDON NEWS」では、開港直後の神戸港の絵が掲載され、今回調査された防波堤の先端から見た運上所と、まだ更地の居留地と背後の六甲山が描かれている。

神戸港が開港する直前の 1864 年は、神戸海軍操練所開設と、幕府により和田岬と旧湊川河口に、兵庫津を防衛する砲台が築造された年である。しかし 1858 年日米修好通商条約を始めとする条約が日本と欧米諸国との間に結ばれ、時代は開国、諸外国との貿易、交流を進める時期となっていた。幕末の幕府と孝明天皇との開港、攘夷という対外政策の不一致が、チグハクな砲台建設となってしまった。

二つの砲台は無用の長物となったが、これらの砲台は幕府が多額の費用を負担した石造りの石堡塔で、兵庫の鍛冶職人や石工、瀬戸内海の島々から花崗岩を切り出し運搬した人など、多くの人の汗の結晶の塊である。湊川砲台は解体されたが、和田岬砲台は 160 年前の姿を今に留めている。残っているからこそ、我々が学びとるものがある。

幕府領であった兵庫津は新政府管理地となり、湊川河口から和田岬にかけての海岸は、川崎造船所、神戸三菱造船所などが開所し、近代神戸の重工業の中心地となった。江戸時代の兵庫津の面影はすっかり無くなり、兵庫津の町衆・住民もその後、兵庫を離れていった。
旧神戸村の浜が新たに神戸港となり、大輪田泊から 1000 年以上、国内有数の港として栄えた兵庫津は消える。居留地を介した海外との交易で、旧神戸村、旧二ツ茶屋村、旧走水村の沿岸部は、港として発展し、港の北側は三宮・元町となり、今に続く神戸の商業・金融の中心となる。

今回の幕末の防波堤発見で、兵庫津から神戸港へ、中心地が移動した開港時の神戸の歴史を、皆様に思い起して頂く機会になれば、と思う。

二つの展覧会 ワルシャワ蜂起と水俣病（2024.6）

ヒストリアン （狩場台）

現在ピース大阪で開催されている 1944 年ワルシャワ蜂起「ワルシャワ。灰の中から甦る不死鳥」展（ワルシャワ蜂起博物館・ワルシャワ市主催）は、ワルシャワ蜂起の歴史が詳細に展示されています。

展覧会の構成は、「ポーランドの首都ワルシャワ」、「ポーランド侵攻」、「ドイツの恐怖政治」、「ポーランド地下国家」、「自由を目指す戦い」、「ワルシャワ蜂起」、「蜂起兵の共和国」、「首都の破壊」、「ヤルタ会談の陰に」、「灰の中から甦る不死鳥」となっています。

ワルシャワ蜂起

1939 年 9 月第 2 次世界大戦が始まったとき、ナチスとの秘密協定でソ連は東方からポーランドへ侵攻し、ポーランドをナチスと二分したことを、私はこの展示で初めて知りました。
展示は 1938 年のドイツ侵攻前から始まり、ナチス占領下のワルシャワ市民の過酷な生活、劣等なスラブ民族を抹殺するというヒトラーの命令で、ゲルマン系とスラブ系、ユダヤ系が峻別され、迫害・殺害・強制収容所送りのポーランド人が多数いたことを知りました。

蜂起後、短期間でしたが臨時政府が機能し、ワルシャワで行政・郵便・新聞発行などが行われたこと、ナチスが撤退時に、ワルシャワを徹底的に破壊したこと、第 2 次世界大戦後、ワルシャワ蜂起に関わった人、地下国家関係者は、政治の舞台から排除され、ソ連の支援を受けた共産党が政権に就いたことも知りました。つい最近、チャーチルとスターリンの間で戦後の欧州分割が内々で了解されていた、という 5 月 24 日付毎日新聞夕刊記事を読み、大国により被占領国の運命が決定されていた歴史の裏面を垣間見た思いです。

展示は、解説パネルと写真パネル、廃墟の街ワルシャワの映像が主ですが、解説の文字を追うだけで、優に 1 時間を越す濃い内容です。ワルシャワ蜂起博物館が構成した上質の展示を、大阪で見学できます。展示は 7 月 14 日まで。関心のある方は、是非ご覧下さい。

もう一つは国立民族学博物館で開催されている、みんぱく創設 50 周年記念企画展「水俣病を伝える」です。今、なぜ国立博物館が水俣病を展示し、どのように伝えようとしているのか、関心を抱き見学しました。

展示構成は、
1. 水俣の現在 映像にみる水俣の自然と町づくり
2. 歴史考証館 水俣病センター相思社の活動
3. 厳存する風景 写真家芥川仁の民族誌的な写真
4. 明神が鼻 水俣病が多発した明神崎という場所の力
5. 啓発事業 行政による水俣病啓発事業で、水俣病発現の歴史は除かれています。

水俣病の資料を保存し展示する団体、ガイドツアーを企画し案内する若者、水俣病を伝え続ける語り部、水俣の写真を撮り続ける写真家、水俣病を記述した教科書などが紹介され、自然豊かな水俣で暮らす人々が語る水俣病を伝え続けることの意義を、私たちは展示をみて理解します。こちらの展示は 6 月 18 日まで。
最終日まで残り少ないですが、お勧めしたい展示です。

水俣病展示

南の小さな島の歴史から見えるもの（2024.7）

ヒストリアン（狩場台）

青い海から押し寄せる波が島を取り巻くサンゴ礁に当たり、白波をたてる。奄美大島以南の島々にはサンゴ礁が発達し、川の河口にはマングローブ林が広がる。6 月の梅雨時、初めて奄美大島を訪れ、南の島々が積み重ねてきた歴史を知った。

奄美大浜海岸

世界自然遺産に登録された奄美大島は、多雨の恵みで植物が豊かに育ち、それに依存する動物層も多種類に及び豊かな生態系が維持されている。

南の島々は、長い間7千年近く、自立・自存の漁労採集社会を持続させてきた。サンゴ礁からは豊富な種類の魚貝類が、マングローブ林からは汽水域を好む魚貝類が採取できる。山には亜熱帯照葉樹のシイが繁茂し、あく抜き不要のドングリが取れる。豊かな海産物に恵まれ、農耕に依存しなくても島の暮らしは十分に成り立った。

大和浜の高倉

奄美以南の島々は、紀元前の弥生時代から九州地方と交易し、イモガイ、ゴホウラなど美しい貝を移出した。貝との交換で、彼らは何を入手したのだろうか。九州との交流でコメや青銅器を知っただろうが、農耕は受け入れなかった。

南方の島々は、7世紀にはヤマト朝廷に知られるようになる。種子島、喜界島、奄美から人々が飛鳥の地を訪れている。最近の考古学の成果によると、奈良時代に太宰府の出先機関が喜界島にあった可能性が高い。それでも奄美以南の人々は、漁労採集生活を続けた。

大河ドラマ「光の君へ」の平安時代になって、やっと農耕を受け入れた。11世紀のことだ。何が原因か、はっきりとした理由は不明だ。でも、家畜や鉄の道具と新しい食卓の土器（石鍋・カムイ焼・中国製陶磁器）が伴っていたことから、その魅力に負けたのかもしれない。それから200年もたたない内に、南の島々には按司（あじ）と呼ばれる指導者が現れ、城（グスク）を築き、競いあう社会に変わる。

15世紀前半沖縄では琉球王国が生まれ、奄美大島、喜界島は琉球王国に吸収される。7世紀から日本国の最南端に位置した奄美群島は、今度は琉球王国の北端になった。集落のノロのように沖

縄の祭祀信仰が奄美地方には今も残る。家の門や集落の入口に置かれる石敢當という魔除けの石も沖縄から伝わった。

奄美の島々は、江戸時代初期、薩摩藩が琉球を支配して以降、薩摩藩の統治下に置かれた。藩の監督下、島の人々に黒砂糖、大島紬の生産が強制された。それから時が流れ、奄美の島々は美しい自然とゆったりとした時の歩みと共に、日本とも沖縄とも違う歴史を重ねてきた。そもそも7000年間、漁労採集経済に生き、農耕社会の経験を僅か1000年しかもたない人々とその2倍～3倍の年数を経験した日本列島の人々とは、背負う歴史が異なる。

大島紬の泥染

島の人々は、稲作を始めたために土地に縛られ、土地の所有を巡って争ってきた人々とは異なる思考と感性をもっていたのだろう。今も自然と神と共に、島の動物と同様、自然の一部となって柔和に暮らす。小さな南の島の歴史から、農耕社会の後継者である我々の足元が透けて見える。

南の小さな島の歴史から見えるもの(その2) （2024.8）

ヒストリアン （狩場台）

沖縄は平和の島だと、沖縄の人は言う。沖縄の歴史を知ると、更にその思いを強くする。

今帰仁城

沖縄では 11 世紀に漁労採集経済の貝塚時代が終わり、農耕を始めたグスク(城)時代に入る。グスク時代になって 2 世紀が経過し、13 世紀には、按司(あじ)という地域の指導者たちが割拠し、互いに覇を競った。その目的は、沖縄島内の産物を独占することより、中国や東南アジアとの交易の主導権をとることであったと思われる。

グスクの発掘調査では、多くの陶磁器が出土する。日本の戦国大名たちが手にする 100 年以上の前のことだ。どのグスクの按司も、ベトナムやタイの陶器、中国の陶磁器、朝鮮の青磁など、アジア各地の焼き物を豊富に所有していた。アジア諸国との中継貿易で、富を得たグスクの按司たち、この時期の沖縄は、まさに海洋交易国家と言える。

グスクの按司たちの覇権をめぐる抗争といっても、日本の戦国大名たちの熾烈な戦いとは、異なっていたと思われる。なぜなら、グスクの構造自体が、日本の城と異なるからだ。そもそもグスクには堀や櫓、敵の侵入を喰いとめる内桝形(うちますがた)などの防御施設はない、反面、グスクにはどこも御嶽(うたき)があり、祭礼の場、集落の聖域という重要な機能がある。グスクは緊急時、村人が避難する場であり、祭礼の神聖な場なのだ。

グスクの防御機能が弱いので、覇権をめぐる抗争も短期の戦いで決着がついたのではないだろうか。グスクからは、鉄鏃や火薬で弾を発射する火矢(ひや)の石弾が出土する。だから弓矢や火矢で敵を狙ったのだろうが、グスクの構造上の弱点から容易に敵に侵入されて、落城したのだろう。

座喜味城の遠景

残虐な干し殺しや皆殺しなど敵を根絶やしにする日本の戦国時代の合戦と、沖縄のグスクの戦いは、異なっていたと想像する。降伏した側は、服属することで許されたのだろう。沖縄の人々が経験した戦いは、この時期だけである。

15世紀に中山王が沖縄を統一し、琉球王国が誕生した。琉球王国成立から約 200 年後、薩摩藩の侵略を受け、琉球は薩摩に降る。両者の軍事力の差、グスクの構造的弱点から、薩摩にとっては、容易に沖縄を攻略できたのだろう。

万国津梁の鐘

琉球王国成立後まもない 1458 年尚泰久王のとき、首里城正殿に懸けられた万国津梁の鐘(沖縄県立美術博物館保管)がある。その銘文に、小さな島沖縄が生き延びる道は、万国と友好を図り、交易でその架け橋となることだと、記されている。グスク時代以降の海洋交易国家、沖縄の人々の気概と願いが込められている。

嘗て外国と友好的に交わり、平和に暮らす人々が沖縄にいたし、平和を願う気持ちは、その後の沖縄の人々の血肉となった。平和への思いは、日本列島の人々より遥かに強い。

その歴史を十分理解せず、先の戦争で沖縄を本土防衛の捨て石として利用した日本列島。日本列島の人々の潜在意識の中に、今も自己を中心とし、南方の島々を周縁とする意識があることを、自戒をこめて認識しなくてはならない。

中グスク

8 月に広島を訪れて（2024.8）

ヒストリアン （狩場台）

広島は夏に訪れるのがいい。あの日の広島をイメージできるから。2024年8月下旬、ジリジリと太陽が照り付ける猛暑の広島を訪れ、平和記念資料館と被爆建物、イサム・ノグチが製作した平和大橋欄干を見てきた。あの日の朝の暑さはどうだったのだろう。

広島平和記念資料館は、リニューアルされてから初めて訪れた。見学者は欧米系を中心とする外国人が 7～8 割を占め、会場は混みあっていた。

あの日多くの被爆者が避難した縮景園

展示は平板なものになってしまった、というのが見学直後の私の印象だ。リニューアル前は、焦土をさまよい歩く被爆者の人形の展示もあった。しかし衝撃的な作り物の展示より、具体性と実物に基づく展示を、というコンセプトにより、それらは撤去された。

今は、灯りを落とした展示室の覗きケースに、被爆者が着ていた衣類や水筒などの携行品が並べられ、壁面に解説パネルが並ぶ展示に変わった。知的に理解するという展示が中心となり、感性に訴える展示、原爆投下後のイメージが浮かぶ仕掛けが少なくなった。

原爆の悲惨さは今の展示でも十分に伝わるという意見もあるが、前の展示を見た者には、物足りなさを拭いきれない。原爆がもたらす破壊の凄まじさと人々への影響を世界に向けて訴えるためにも、広島の惨状を一瞥で理解させる等身大の再現展示は必要だったと思う。

広島城内の被爆樹木

平和記念資料館の北隣に、被爆遺構展示館がある。当時の道路と道路に面する家の地下遺構が保存されていて、平和公園が整備される前の下町の人々の生活の跡が見られる。遺構なので、イメージをしないと人々の暮らしが分かりにくい点もあるが、原爆投下前、確かにここに町があり、人々の日常の暮らしがあったと知ることは、インパクトがある。

その隣になぜか G7 広島サミット記念館があった。サミット会場の会議が行われた円卓や参加国首脳の色紙が展示してあったが、平和記念公園内にサミットの記念館がある意味を、核保有国が核兵器を廃棄しない限り、私は理解できない。

被爆建物旧日銀広島支店

広島には原爆の惨禍を生き抜いた被爆樹木や被爆建物がある。被爆樹木は平和大通りや広島城内に残り、被爆建物は今年重要文化財になった旧広島陸軍被服支廠など 86 件残る。爆心地近くの旧日銀広島支店も被爆建物で、今は広島市の文化施設となっている。あの日、猛烈な爆風と熱線と放射能を浴びながらも、今もその場に建ち続ける建物には、重厚さと風格が備わっていた。

被爆した広島のために平和記念公園慰霊碑のデザインを依頼されたのは、イサム・ノグチだった。
アメリカ人の血をもつという理由？で、彼の案は取り消され、丹下健三がノグチのデザインを参考に今の慰霊碑を製作した。ノグチがデザインした橋の欄干は平和大橋、西平和大橋に今もあり、そこからノグチが広島のために込めた思いを汲むことができる。

平和大橋欄干イサム・ノグチ作品

暑い夏に広島を訪ねるのは、あの日を経験した人々に近づく一歩だ。

東日本大震災 津波被災地の今 （2025.1）

ヒストリアン （狩場台）

今年は能登半島地震から 1 年、阪神・淡路大震災から 30 年、そして 3 月には東日本大震災から 14 年を迎えます。私は昨 12 月中旬に宮城県南部の津波被災地、名取市閖上（ゆりあげ）地区と山元町坂元地区を訪ねました。

名取市閖上地区は仙台市との境界をなす名取川の河口南側に位置し、太平洋に面して 2000 世帯、5078 人が住む町でした。江戸時代には仙台藩直営の漁港として栄え、震災前も活気のある町でした。

東日本大震災では高さ 8.4mの津波で住宅がすべて流され、閖上地区だけで 701 名が犠牲になりました。町のあった場所は、住宅建設禁止地区となり、褐色の更地が拡がっています。今は、震災メモリアル公園や日曜・祝日に開催される朝市、トレイルセンターという観光施設が点在するだけです。

震災前の名取市閖上地区

震災の記憶を伝える名取市震災復興伝承館が、閖上地区のすぐ西、名取川の堤防上にあります。震災前の閖上地区の模型、地図が展示され、3.11 の津波被害の映像が見れるシアタールーム、防災学習コーナーなどがあります。コーナーには重さ 30 ㎏の下駄が置いてあります。浸水 30 ㎝で 30 ㎏の力がかかり、とても歩いて逃げられないことを体験できます。

新閖上地区の住宅は、元の町から 0.5～1km 西の 4m盛土した地区に移転していますが、人は 1398 世帯、3008 人に減少し、人口の回復は震災前の 6 割にとどまっています。

名取川の堤防上に建つ
震災復興伝承館

宮城県山元町は福島県との境に位置し、太平洋側の温暖な気候から、野菜やイチゴ栽培が盛ん町です。山元町も津波で町の 1/3 が浸水し、旧常磐線（現在常磐線は 500m西へ移転）の山下駅舎跡には慰霊碑と大地の塔が立ち、637 人の犠牲者名と亡くなった年齢が石に刻たことを知り、胸が痛みました。

慰霊碑の南東、海岸から 500mの場所に震災遺構の中浜小学校があります。震災当日 10mの高さまで津波が押し寄せましたが、幸い児童や教師、学校へ避難してきた住民、計 90 人は屋上に逃れ一命をとりとめました。

山元町大地の塔と慰霊碑

ガイドの方 2 名が当日の学校の様子を語ってくれました。校長先生の判断で、避難場所まで 20 分歩いて逃げるより、学校で待機し避難する道を選択し、翌朝児童たちは自衛隊ヘリで救助されたのでした。偶々前日に、職員で避難場所まで歩いて確認したこと、学校用地が2m盛土されていたことが、好判断につながったそうです。

中浜地区は小学校の北側と南側に人家が建ち並び、1000 人程の人が住んでいましたが、今は人家のあった場所は更地が拡がり、中浜小学校は廃校になりました。

山元町震災遺構　中浜小学校

山元町の人口は、震災前の 16695 人から 11427 人へ 3 割以上減少し、未だ回復していません。復興を担う町職員も退職者が増え、町の将来を懸念する声も聞かれました。

今回訪ねた名取市閖上地区、山元町では、人口減少、高齢化が進んでいました。能登半島地震被災地は公費解体が今年 10 月まで続き、復興事業はその先です。東日本大震災被災地をみても、元通りに復興することは容易ではありません。能登の地でも人々が戻らないことで、先祖
代々人々が手入れしてきた美しい土地が、荒廃しないことを願うばかりです。能登の被災地の復興の姿がどのようになるのか、今後も注視していきたいと思います。

津波が通り抜けた中浜小教室